



# Newsletter

No.11 (2003.5.7 発行)

## JAICOWS会長挨拶

島田 淳子

(日本学術会議第16, 17期第六部会員, 昭和女子大学副学長)

日本学術会議第18期もまもなく終わろうとしております。本ニューズレターにご案内が掲載されております5月17日の公開講演会「ジェンダー問題と日本の学術」は、3年間積極的な活動を進めてきた「ジェンダー問題の多角的検討特別委員会」の総括とも言える講演会です。特別委員会の活動を支えてきたJAICOWSとしても、特別委員会の活動成果を喜ばずにはられません。学界における男女共同参画に関しては、よくぞここまで来たと評価なさる方も、全く逆の評価をなさる方もおいででしょう。評価はどうか、男女共同参画に対する私たちの熱い願いと1人1人の努力が、今までの成果の基礎にあると同時に、今後ともに必要不可欠であることは確かであると思います。皆様と一緒に今後とも、努力して参りましょう。

## JAICOWS 2002年度(第12回)総会の開催

下記のとおり総会が開催されましたので御報告申し上げます。

日 時：2003年3月27日 11:00~12:00

場 所：日本学術会議5階第1部室

出席者：伊藤セツ, 岩井宜子, 加藤万里子, 小林和子,  
島田淳子, 原ひろ子, 神長百合子, 鳥居淳子,  
中山榮子, 丹羽雅子, 馬場房子

総司会：中山榮子

### ・あいさつ

島田淳子会長：創立8年目のJAICOWSの活動成果と課題を話された。

原ひろ子副会長(日本学術会議会員)：第18期ジェンダー特委の活動を中心に、特に学協会登録調査にジェンダーの視点をいれたことを強調された。

・議長選出：鳥居淳子氏が選出された。

(2003.3.26日現在：会員数157名, 委任状出席37名, 出席11名)

注：翌週30名の委任状が届いた。

### 1. 活動報告

事業報告：伊藤事務局幹事が下記の報告を行った。

・会員現勢は、157名であること、役員会は4回(2002年5月2日, 11月12日, 2003年3月17日, 3月27日)開催されたこと、ニューズレターは2号(No.9(12.10), No.10(3.15))発行されたこと、それを会員157名と非会員117名に配布していることが報告された。

・日本学術会議の「ジェンダー問題の多角的検討委員会」(以下「ジェンダー特委」と同ワーキン

グ・グループへの協力としては、要望書を2002年5月2日に「学校における男女平等教育の推進」に関する要望書を公開シンポジウム参加者一同・代表島田淳子名で提出、2003年3月27日付けで、「研究者への育児支援」を厚生労働省、文部科学省等に提出予定であること、同じく3月27日付けで、「第19期日本学術会議に学術への男女共同参画特別委員会(仮)設置の要望」を学術会議会長および「ジェンダー特委」委員長に提出予定であることが報告された(後掲)。

・「ジェンダー特委」のシンポジウムの協力としては、2002年12月24日に「学術の世界におけるセクシュアルハラスメント~加害と被害」に協力し、2003年3月27日に、「研究者への育児支援」を共催したことが報告された。

・広報活動をホームページ上、またマスコミ等に行った。

### 2. 2002会計報告

総会では2002年3月20日現在の中間報告が行われ、後日会計年度終了後に会計監査報告を行い、役員会にて正式の会計報告を承認することが了承された。(会計報告は後掲)

### 3. 2003年度活動計画

①「ジェンダー特委」同ワーキング・グループへの協力(19期日本学術会議発足後はこれに類するものに協力)

②ニューズレター発行(2回)

③「ジェンダー特委」シンポジウムへの協力(当面は5月17日 1時~5時 後掲)その他

④要望書の提出

### 4. 2003年度会計予算

中間決算報告に基づく暫定予算が示され、会計監査後繰入金等の修正で、正式予算を役員会で組むことが承認された。

#### 5. 役員

鳥居副会長が法制審議会会長に就任するなど多忙のため退任し、鈴木益子氏が副会長に選出された。役員として岩井宜子氏が選出された。

・その結果組織体制は下記の通り

会長：島田淳子（役員歴：2004.3.31で3年任期の3期終了）

副会長：原ひろ子（役員歴：2004.3.31で3年任期の3期終了）

副会長：鈴木益子（新）

企画：浅倉むつ子（役員歴：2004.3.31で3年任期の3期終了）

直井道子（役員歴：2004.3.31で3年任期の3期終了）

神長百合子（役員歴：1期2年目）

広報（HP/マスコミ）：加藤万里子（役員歴：2000年臨時総会で選出，1期2年半）

広報（対日本学術会議）：岩井 宜子（新）

会計：中山榮子（役員歴：2001年3月総会で選出，1期2年目）

事務局幹事（庶務）：伊藤セツ（役員歴：2000年4月総会で選出，2期1年目）

## JAICOWS 副会長就任挨拶

鈴木益子

この度因らざるも JAICOWS 副会長に選出されましたことは誠に光栄に存じます、と同時にその責任の重さを痛感しております。実は「日本女性科学者の会」を学術会議の登録学協会にと理事共々努力を致し第19期に承認され、心おきなく会長職を辞せると安堵しましたその折り、このお知らせを頂き、学術会議との因縁の深さを痛感しております。

今後は、学術会議研連委員（15～17期）等これまでの経験を生かして島田淳子会長を補佐し、JAICOWSの活動をより円滑に且つ普及させるべく努力する所存でございます。皆様のご支援・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。（2003年3月）

## 2002年度会計決算報告

2003年3月31日

### 1. 収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差異(△収入減)	備考
繰越金	58,896	58,896	0	
会費	600,000	712,000	112,000	178人分（うち2001年度分33件） （2003年3月31日現在会員総数157）
利子	100	73	△27	
寄付	90,000	100,000	10,000	役員会において寄付
その他	10,000	0	0	
合計	758,996	870,969	121,973	

### 2. 支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差異(△支出増)	備考
通信費	50,000	19,167	30,833	総会はがき代、宅配便代、発送手数料、 タックシール代(非会員117人分含む)
Newsletter発行・発送費 (2回)	160,000	126,840 43,870	△10,710	No.9,10 作成費 No.9,10 送料(非会員117人分含む)
行事費	90,000	80,415	9,585	会場費、シンポジウム講師(3人)謝金 アルバイト代(1000円×18時間)
会議費	30,000	2,202	27,798	昼食代
学会業務委託費	420,000	420,000	0	World Planningへ
予備費	8,996	290	8,706	口座残高証明書発行手数料
合計	758,996	692,784	66,212	
次年度繰越金		178,185		

## 会計監査報告

女性科学者の環境改善に関する懇談会平成14年度収支決算について、決算諸表に基づき監査した結果、適正かつ正確なものであることを認めます。

平成15年4月25日

会計監査 馬場 房子 印

会計監査 袖井 孝子 印

## 公開シンポジウム「研究者への育児支援」 中山榮子（木材学研連委員）

2003年3月27日, 14時～17時 日本学術会議において第18期日本学術会議「ジェンダー問題の多角的検討特別委員会」主催の公開シンポジウム“研究者への育児支援”が開催されました。このシンポジウムの主旨は『21世紀の日本の科学をより豊かに実り多いものにするためには、さまざまな発想をもったいろいろなタイプの研究者が、自由に学問の世界に参入できるような学術体制を構築することが望まれている。学問の世界での男女共同参画は、最近、進展をみせはじめています。文科省や国立大学・研究機関での通称使用や、各学会の大会開催時に保育室が設置されるなどの動きはその例である。しかし統計が示すように、日本は諸外国にくらべ、女性研究者の割合が特に理工系で低いなど、豊かな人材確保の上でまだまだ改善の余地がある。ジェンダー特委では、継続的に学術体制の中のジェンダーバイアスを改善するための問題提起を行ってきた。昨年のシンポジウム『女性研究者と科学研究費』につづき、今年は育児支援をとりあげ、問題点を明らかにし、具体的な政策提言へむけて議論を喚起したい。』というものです。

まず、文部科学省男女共同参画学習課女性政策調査官の渡部徹氏より、研究者への育児支援について、女性の多様なキャリアを支援するための懇談会の第一次報告書を元に女性研究者への支援についてお話がありました。また、少子化対策推進関係閣僚会議が決定した“次世代育成支援に関する当面の取組方針について”についても紹介がありました。フロアからは“女性研究者が働きやすい環境を整備するというが、女性だけに限らず男性研究者にも働きやすい環境を整備すると考えるべきでは？”仕事と子育ての両立支援のための待機児童ゼロ作戦というが、保育の質は問わないのか”といった質問が出ていました。あわせて「かすみがせき保育所」についても現状報告がありました。

ついで、「研究者と子育て」と題し、都河明子東京医科

歯科大学教授より2001-2002年度文科省科学技術振興調整費による調査研究結果報告がありました。例えば、研究活動の中断の有無や家事育児などの支援者について、性別による処遇格差の経験や見聞など細かなデータの紹介などです。研究職の継続意向と研究者としての全体的な満足度の関連で、若手の女性研究者の継続意向が低く、将来に対する不安やロールモデルの不在などが響いているのではないかとのことでした。

次の報告は富士通カンタムデバイスの堂免恵氏からで、2001年に応用物理学会で、男女共同参画委員会が行ったアンケートの結果報告でした。男女差が大きく出たのは役職、子どもの数、母親役割など、全体の1/6の項目でした。たとえば、40-44歳の女性はほとんどが助手であるのに対し、男性はほとんどが助教授以上でした。また、男性は女性が働くためには環境整備が重要と考えており、一方女性は人々の意識や社会を変える事が重要と考えているなど、大変興味深い結果も紹介されました。

休憩の後はパネルディスカッションでした。加藤万里子慶応義塾大学助教授(天文学研連)より、天文学会における学会保育室の設置およびそのHow ToをHPで紹介していることなどについて、ついで中山榮子昭和女子大助教授(木材学研連)より、スチューデントマザー(学生、院生、オーバードクター、日本学術振興会特別研究員)の抱える様々な問題や社会の認識などについて、最後に池島(片岡)宏子慈恵会医科大学助手より関連学会の学会保育室の設置状況や医学系教育研究期間における教員の男女比等について報告・紹介がありました。

育児は女性だけの問題ではないといった根本のところから社会の認識を変えていかねばならないことを痛感させられたシンポジウムでした。

なお、このシンポジウムに出席した方々からの意見をまとめ、下記の要望書をまとめ厚生労働省、文部科学省等に提出しました。

### 研究者への育児支援に関する要望書

平成15年3月27日

殿

女性科学研究者の環境改善に関する懇談会 (JAICOWS)  
会長 島田 淳子  
JAICOWS第12回総会参加者一同

日本の科学研究をより豊かに実り多いものにするためには、さまざまな発想をもったいろいろなタイプの研究者が、自由に学問の世界に参入できるような学術体制を構築することが望まれており、男女の研究者が育児と研究を両立させることができる環境整備を行うことは、学術の発展のためにもきわめて重要な意味をもつ。そのような観点から、大学・研究機関とその監督の任にある国や地方自治体は、男女研究者が研究と育児の両立を可能にできるような各種の支援策を積極的に講ずるべきである。とくに、女性研究者にとっては、研究の成熟と実際の出産・育児適齢が重なる20代後半から30代にかけての時期において、研究条件の整備、産休・育休明けの職場復帰の確保、配偶者の育児参加を支持する社会的合意の形成、ならびに子どもの健やかな成長を担保する社会的インフラの強化を含む社会変革がきわめて重要である。これらの支援策なしには、現在研究者家庭に見られる極端な少子化現象の改善はあり得ない。その意味を確認しつつ、研究者への育児支援に関して、関係各方面に対して、以下の点を要望する。

記

1 (産休・育休の確保と不利益取り扱いの禁止)

大学や研究機関は、女性研究者が産休・育休の権利を行使することを積極的に支持すると共に、産休・育休をとったことがいかなる不利益ももたらすことがないように配慮すべきである。

大学や研究機関の監督機関は、各大学・研究機関がこの点について真摯な対応をするように監視しなくてはならない。

2 (研究者の個別ニーズへの対応)

大学や研究機関は、男女研究者に対して適正な育児支援策を講じなければならない。これら支援策は、大学や研究機関への保育施設の付置、乳幼児をもつ女性研究者に対する特別な研究助成金、育休の取り方の非画一化(フレックスタイム制)、実験支援者の雇用など多彩な内容が想定されるが、あくまでも、個々の研究者の研究上の事情から来るニーズに対応した適用が可能にならなければならない。

3 (育児中の研究者への条件整備)

学会が開催されるときには、育児中の会員が出席できるように、学会事務局が責任をもって保育室を設置することが望まれる。文部科学省は、各学会が、かかる便宜を図るように奨励すべきである。

4 (大学・研究機関に関する第三者評価の項目)

大学・研究機関に関する第三者評価の項目に関しては、研究と育児の両立が可能となるような支援策を講じていることが重要な評価基準とされるべきである。

5 (大学・研究機関および行政担当者を含む社会一般の意識改革)

大学・研究機関および行政担当者を含む社会一般の意

識改革をはかるよう施策を進める。  
6 (苦情受けおよび苦情処理のための窓口の設置)

大学・研究機関に苦情受けおよび苦情処理のための  
窓口を設置する。

## 要 望 書

平成 15 年 3 月 27 日

日本学術会議会長 吉川 弘之 殿  
日本学術会議ジェンダー問題の多角的検討特別委員会  
委員長 蓮見 音彦 殿

女性科学研究者の環境改善に関する懇談会 (JAICOWS)  
会長 島田 淳子  
JAICOWS第12回総会参加者一同

### 第 19 期日本学術会議における「ジェンダー問題の多角的 検討特別委員会」に類する特別委員会の設置および女性 会員比率を目標値まで高める具対策への推進について

第 18 期日本学術会議におかれましては、かねてより学  
術体制の改善のためにご努力下さっていることに感謝申  
しあげます。

特に、第 17 期の「女性科学者の環境改善の推進特別委  
員会」に引き続き、「ジェンダー問題の多角的検討特別委  
員会」を設置され、男女共同参画社会における日本の学

術のあり方の検討とあらゆる学問領域にジェンダー視点  
を入れるという重要課題に、積極的にご努力を重ねてい  
らっしゃることについて、深い敬意を表明致します。

ご承知のとおり、日本学術会議女性会員は、第 16 期に  
は 1 名 (0.5%)、第 17 期は 2 名 (0.9%) でした。第 17  
期日本学術会議声明で「10 年間で女性会員比率を 10% まで  
高める寝る」とだされていますが、第 18 期は 3.3% (7  
名) にすぎません。国の審議会の委員の女性比の目標  
(30%) に比べて学術会議の目標は控えめでありますが、  
第 19 期に当たりまして、下記の件を要望致します。

#### 記

1. 第 19 期においても「ジェンダー問題の多角的検討特別  
委員会」に類する特別委員会を設置していただきたい。
2. 第 19 期にも上記委員会に、日本学術会議会員以外の  
オブザーバー参加をお認め頂きたい。
3. 第 19 期においても、日本学術会議会員女性比率の上  
昇に関する具体策を推進していただきたい。

以上

## 公開講演会「ジェンダー問題と日本の学術」

日時 2003 年 5 月 17 日 (土) 13:30~16:30

開場 学術総合センター 会議室 (千代田区一ツ橋 2-1-1)

地下鉄:(半蔵門線, 三田線, 新宿線の神保町下車: A8 出口から徒歩 3 分または東西線の竹橋駅 1B  
下車徒歩 4 分)詳しい地図は <http://www.zam.go.jp/> の所在地をクリックし下側の地図をみて下さい(入場  
無料, 予約は要りません)

主催 第 18 期日本学術会議ジェンダー問題の多角的検討特別委員会

日本学術会議ジェンダー問題の多角的検討特別委員会 (以下ジェンダー特委) では、女性研究者の問題、  
学術研究とジェンダー視点、男女共同参画社会の確立にかかわる諸問題、など、多くの問題を取り上げて  
検討をすすめてきましたが、これらの活動をとりまとめて紹介する講演会を開催します。下記の 5 本の講  
演を通じて、ジェンダー視点に立った新たな学術の意義と、それを推進する方向に向けてのさまざまな試  
みと、これまでの到達点が明らかになるでしょう。

司会 原 ひろ子 (日本学術会議第 1 部副部長 ジェンダー特委幹事 放送大学教)

開会の辞 吉田 民人 (日本学術会議副会長 東京大学名誉教授)

#### 【第 1 部】

- ・ジェンダー問題の多角的検討 蓮見 音彦 (第 1 部会員 ジェンダー特委委員長 和洋女子大学特任教授)
- ・女性研究者の研究環境の改善 池内 了 (第 4 部会員 ジェンダー特委幹事 名古屋大学教授)
- ・学協会における男女共同参画 柏木 恵子 (第 1 部会員 ジェンダー特委委員 文京学院大学教授)

#### 【第 2 部】

- ・精神医学とジェンダーの視点 高橋 清久 (第 7 部会員 ジェンダー特委委員 国立精神・神経センタ  
ー総長)
- ・社会政策とジェンダーの視点 大沢 真理 (東京大学社会科学研究所教授)

連絡先: 加藤万里子 [mariko@educ.cc.keio.ac.jp](mailto:mariko@educ.cc.keio.ac.jp) (電話)045-566-1135

連絡先: 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会 (JAICOWS) 事務局

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂 1-7 昭和女子大学女性文化研究所内 担当幹事 伊藤 セツ

Tel 03-3411-5096 Fax 03-3411-5264 E-mail [jo-2100@swu.ac.jp](mailto:jo-2100@swu.ac.jp)

<http://sunrise.hc.keio.ac.jp/~mariko/jaicows/>

事務センター: 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル 株式会社ワールドプランニング

Tel 03-3431-3715 Fax 03-3431-3325 E-mail [world@med.emall.ne.jp](mailto:world@med.emall.ne.jp)